

LEONARD FOUJITA
ART BRIDGING THE EAST AND THE WEST

Foujita

2016年 夏、フジタ、神戸上陸。

東と西を結ぶ絵画
生誕130年記念
藤田嗣治展

本展のみどころ

○お河童頭に丸眼鏡で有名な藤田嗣治（ふじた・つぐはる 1886 - 1968）の生誕130年を記念して開催する回顧展です。

○初期から晩年までの作品を、時代を追ってご紹介します。藤田の生涯と画業を追う回顧展形式の展覧会は、生誕120年の記念展（2006年・東京国立近代美術館等）以来、10年ぶりです。

○藤田嗣治を主人公にした映画（『FOUJITA—フジター』2015年、小栗康平監督、オダギリジョー主演）が公開されるなど、再びスポットライトを浴びている画家の展覧会です。

○1920年代のパリでの成功と、流行児としての華やかな生活。戦中期に描いた戦争画。その是非を問う責任論。結果としての離日とフランス国籍取得（日本国籍離脱）、カトリック受洗。そして、自身が内部に絵を描いた礼拝堂で眠る藤田。その生涯は、人生と芸術のぬきさしならない関係を考えさせてくれます。

○油彩、水彩、素描あわせて約120点を展示します（一部展示替えあり）。

○音声ガイドの語り手はオダギリジョーさん（解説：約30分、貸出料金：520円、ナレーター：玉川砂記子）。

生誕130年記念

藤田嗣治展—東と西を結ぶ絵画—

LEONARD FOUJITA

ART BRIDGING THE EAST AND WEST

開催趣旨

19世紀半ば、北斎や広重を含む浮世絵がヨーロッパ絵画に与えた影響は「ジャポニスム」と名付けられ、モダンアートの誕生に大きな貢献をしました。以来数百年、東西の交流はさまざまに豊かな成果を生み出しましたが、その原点でもあり頂点でもある存在として、今なおまばゆい輝きを放っているのが藤田嗣治（1886—1968）の芸術です。

27歳で初めてフランスに渡って以来、81年の生涯の半分近くをフランスを中心とする異国で送った藤田の芸術は、まさに東と西の文化の上に誕生したものでした。陶器を思わせる滑らかで鈍い光沢を放つ白い下地の上に引かれた、均一にして流麗な線によって浮かび上がる美しい裸婦の姿。ヴォリュームと線、写実と装飾という対立する二つの要素を、ヨーロッパの伝統的な主題の上に見事に融合してみせたその芸術は、藤田を一躍パリ画廊の寵児の位置に押し上げました。

しかし、東西の豊かな土壌の上に新たな芸術の花開かせた藤田その人は、一方で二つの文化に引き裂かれる苦しみを味わいます。大きな成功を手にした後も繰り返し浴びせられる毀誉褒貶。戦争画の問題を巡る過熱した責任論は、二つの世界に生きた藤田が背負わされた重い十字架でした。その心の苦しみを癒すかのよう、最晩年の画家はランス礼拝堂の建設に残された生命を注ぎ込み、完成から1年あまりでこの世を去ります。東西融合の喜びと苦しみを一身に引き受けた生涯でした。

今回の展覧会は、東と西の間に花開いた藤田嗣治の芸術の全貌を紹介するものです。画家没後長らく遺族のもとに保管され、ランス市に寄贈された800余点の中から選り抜かれた作品を中心に、国内外の主要なコレクションを網羅した本展は、複雑にして多面的な要素を持つ藤田芸術の真髄に触れる絶好の機会となるでしょう。未公開作品多数を含む本展が、藤田芸術の新たな解釈と理解につながることを期待します。



1. 《自画像》1929年 東京国立近代美術館蔵
©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2016 E2169

開催情報

会期

2016年7月16日（土）～9月22日（木・祝）

休館日：毎週月曜日

（7月18日〔月・祝〕は開館、翌7月19日〔火〕休館、

9月19日〔月・祝〕は開館、翌9月20日〔火〕は休館）

開館時間：午前10時～午後6時（金・土曜日は午後8時まで）、

入場は閉館の30分前まで

主催：兵庫県立美術館、産経新聞社、神戸新聞社、NHK神戸放送局

後援：在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本、公益財団法人伊藤文化財団、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、関西テレビ放送、ラジオ大阪、サンケイリビング新聞社、サンケイスポーツ、タ刊フジ、サンテレビジョン、ラジオ関西

協賛：一般財団法人みなと銀行文化振興財団、GREG C. K. LIU FOUNDATION、TKG Foundation for Arts & Culture、トヨタ自動車、野崎印刷紙業

協力：日本航空、日本貨物航空

特別協力：ランス美術館

観覧料

一般1400円（1200円） 大学生1000円（800円）

高校生・65歳以上700円（600円）

※（ ）内は前売および20名以上の団体割引料金

※前売券は一般・大学生のみ（7月15日〔金〕まで販売します）。

※主なチケット販売所：チケットぴあ（Pコード：767-463）、ローソンチケット（Lコード：52055）、セブンイレブン、イープラス、CNプレイガイドほか京阪神のプレイガイド。

※障がいのある方は各当日料金の半額（65歳以上を除く）。その介護の方1名は無料。

※割引を受けられる方は、証明できるものをご持参のうえ会期中美術館窓口で観覧券をお買い求めください。

※県美プレミアムの観覧には別途料金が必要です（本展をあわせて観覧される場合は割引あり）。

展覧会構成

I章 模索の時代 1909年～1918年

藤田は、東京美術学校（現東京藝術大学）西洋画科を卒業した後の1913年に憧れのパリの地を踏みました。しかし、翌年には第一次世界大戦が勃発。仕送りが途絶え苦しい生活の中で描いた作品を紹介します。

II章 パリ画壇の寵児 1919年～1929年

数多くの異邦人画家が活躍した、後に「狂乱の時代」と呼ばれる1920年代のパリで、藤田は画壇の寵児として、日本人では初めてとていい大きな成功を手にしました。ここでは、藤田の名を広めた裸婦像や社交界の人物を描いた作品を展示します。

III章 さまよう画家 1930年～1937年

1930年代の藤田は、アメリカから中南米、中国、そして日本と、各地を転々としながら制作を続けます。ここでは、旅から得た主題を鮮烈な色彩で描くなど、1920年代の作風とは大きく異なる作品を展示します。

IV章 戦争と国家 1938年～1948年

藤田の画業の中でひとつの頂点をなすのが、国家の要請で描いた戦争画です。ここでは、大きな問題をはらむ戦争記録画3点と、並行して描かれた作品を展示し、藤田の生涯を考える上で重要なファクター、戦争と国家、そして、それらと画家の関係を探るきっかけとします。

V章 フランスとの再会 1949年～1963年

戦争画制作とその責任を問う議論の数々に傷ついた藤田は、1949年に日本を離れ、1950年ニューヨーク経由でパリに到着します。ここでは、藤田の画業の新たな展開といえる、懐かしいパリの街並みを描いた作品や、愛らしい子供を描いた作品をご紹介します。

VI章 平和の祈り 1952年～1968年

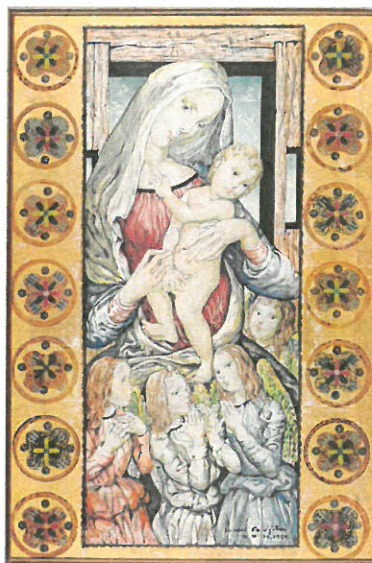
カトリックの洗礼を受けた1959年以降、藤田は、それまでは余り描くことのなかった宗教画を描くようになります。西洋絵画の大きな流れに掉さしつつ、自身の内なる平和と世界の平和を同時に願った藤田晩年の制作を紹介します。



2. 《エレヌ・フランクの肖像》1924年 イセ文化基金蔵
©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2016 E2169



3. 《猫》1940年 東京国立近代美術館蔵
©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2016 E2169



4. 《聖母子》1959年 ランス大聖堂蔵（ランス美術館寄託）
©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2016 E2169

作家紹介

- 1886年 11月27日、東京府牛込区(現東京都新宿区)に生まれる。父、嗣章は後に陸軍軍医総監となる軍医。母、政の縁戚には、劇作家の小山内薫、画家の岡田三郎助、音楽評論家の葦原英了などがいた。嗣治は四人兄弟の末っ子。
- 1888年 父の転任にともない熊本に転居する。
- 1898年 姉・きくの嫁ぎ先の葦原家(東京市四谷区)に転居する。
- 1905年 東京美術学校西洋画科に入学。
同級生に岡本一平、近藤浩一路らがいた。
- 1910年 東京美術学校を卒業。鴉田登美子と婚約。2年後に結婚する(1916年に離婚)。
- 1913年 6月、フランスに向かい、8月6日、パリに到着。
- 1917年 3月、フェルナンド・バレと結婚。シェロン画廊と契約し6月に初の個展を開催。
- 1919年 サロン・ドートンヌに6点を出品し、全て入選を果たす。
- 1920年 サロン・ドートンヌに会員として油彩6点を出品。
- 1924年 フェルナンドと別れ、ユキと暮らし始める。
- 1929年 9月、ユキとともに17年ぶりに帰国。
- 1930年 1月、日本を発ち、アメリカ経由でパリに戻る。
- 1931年 秋、ユキと別れ、マドレーヌ・ルクーと結婚。
10月、マドレーヌを伴って中南米の旅に出る。
2年間にわたり、ブラジル、アルゼンチン、ボリビア、ペルー、キューバ、メキシコなどを旅する。
- 1933年 メキシコからアメリカ西部を経て、11月に日本に帰国。
- 1936年 6月、マドレーヌが急死する。12月、堀内君代と結婚。
- 1938年 4月から5月にかけて沖縄を旅行。10月、海軍省囑託として中国に派遣される。
- 1939年 4月、アメリカ経由でパリに渡る。



5. 中山岩太《ポートレート(藤田嗣治)》
1926-27年 中山岩太の会蔵
©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2016 E2169

- 1940年 5月、パリを離れ7月に神戸に到着。お河童頭を止め丸刈りにする。9月、ノモンハンに取材する。
- 1941年 1月、父嗣章が死去。7月、帝国芸術院会員となる。10月、仏領インドシナに派遣される。
- 1942年 2月、『随筆集、地を泳ぐ』を出版。この年、シンガポールや南方に派遣され、戦争記録画を多数制作。
- 1944年 空襲を避け、神奈川県小淵村に疎開。
- 1946年 日本美術会が結成され、美術界の戦争責任の追及が始まる。
- 1949年 3月、ニューヨークへ出発。5月、妻君代が台流。
- 1950年 1月、フランスに移住。
- 1955年 2月、フランス国籍を取得。
- 1959年 10月、ランスのノートルダム大聖堂でカトリックの洗礼を受ける。
- 1965年 ランスに礼拝堂を建設することを決意。
- 1966年 ノートルダム・ド・ラ・ベ(平和の聖母)礼拝堂として8月に完成する。
- 1968年 1月29日、チューリッヒの病院で死去。ランス大聖堂で葬儀が執り行われる。

関連イベント

■ 記念講演会

7月17日(日) 午後2時より約90分

講師：浅田 彰氏(批評家)

演題：フジタを追って——世界史を横断したトリックスターの足跡

場所：ミュージアムホール(定員250名〔友の会会員優先席あり〕)

聴講無料(要観覧券・整理券*)※当日午前11時からホワイエで整理券を配布

■ 連続講演会「フジタへの視点」

第1回 藤田嗣治の1930年代 —東西の狭間での葛藤—

8月7日(日) 午後2時より約90分

講師：深谷克典氏(名古屋市美術館副館長)

第2回 藤田嗣治「乳白色」の真実

8月21日(日) 午後2時より約90分

講師：内呂博之氏(金沢21世紀美術館コンサーベーター/キュレーター)

第3回 藤田嗣治の戦争と美術

8月28日(日) 午後2時より約90分

講師：河田明久氏(千葉工業大学教授)

場所：いずれもミュージアムホール(定員250名) 聴講無料、要観覧券

学芸員による解説会

7月30日(土)、8月6日(土)、8月20日(土)、9月17日(土)

いずれも午後4時より約45分

場所：レクチャールーム(定員100名) 聴講無料

ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中の毎週日曜日、午前11時より約15分

場所：レクチャールーム(定員100名) 聴講無料

おやこ解説会

8月6日(土)、8月20日(土) いずれも午後1時30分より約30分

場所：レクチャールーム(定員100名) 要申込、参加費無料

お問い合わせ：こどものイベント係 Tel: 078-262-0908

KEN-Vi 名画サロン特別上映

「FOUJITA—フジター」(2015年/日本・フランス/2時間6分)

監督：小栗康平

出演：オダギリジョー、中谷美紀、アナ・ジラルト*、アンジェル・コモー

7月24日(日) ①10:30~12:40 『FOUJITA』上映

②14:10~16:20 『FOUJITA』上映 ※各回入替制

※12:50から小栗康平監督のトークショー

(1回目、2回目どちらかの映画入場券が必要)

場所：ミュージアムホール(定員250名)

料金：大人 1,300円(一般、シニア共) 芸術の館友の会会員 500円

NPO神戸100年映画祭賛助会員 800円

NPO神戸100年映画祭正会員 無料

主催：兵庫県立美術館アートフュージョン実行委員会、NPO神戸100年映画祭、兵庫県映画センター

お問い合わせ：兵庫県映画センター内

KEN-Vi名画サロン係 Tel: 078-331-6100

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

TEL: 078-262-0901(代表) FAX: 078-262-0903

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905(グループ直通)

FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること

担当学芸員：西田桐子、小林公

e-mail: nishida@artm.pref.hyogo.jp

TEL: 078-262-0909(学芸直通) FAX: 078-262-0913

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

同時開催の展覧会

県美プレミアムⅡ

特集

「時間をひらく—新収蔵品を中心に」(仮)

小企画

「美術の中のかたち—手で見る造形—

つなぐ×つつむ×つかむ：無視覚流鑑賞の極意」(仮)

7月2日(土)~11月6日(日)

横尾忠則現代美術館

ヨコオ・マニアリズムvol.1

8月6日(土)~11月27日(日)

交通案内

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅から南に徒歩約10分

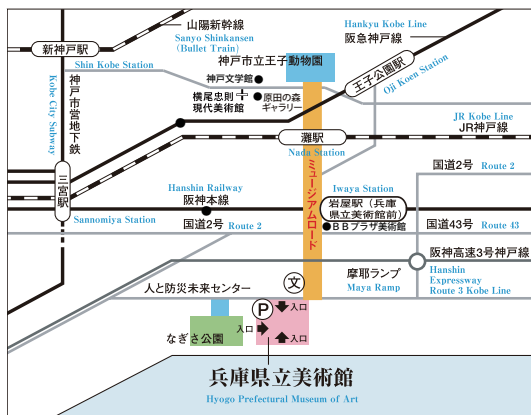
阪急神戸線王子公園駅から南西に徒歩約20分

神戸市バス・阪神バス「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場：乗用車80台収容・有料

*ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

*団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



■■■■■ 広報画像等に関するご案内 ■■■■■

「生誕 130 年記念 藤田嗣治展 -東と西を結ぶ絵画-」をご紹介いただく場合は、下記の注意事項をご確認いただき、裏面「広報画像申込書」に必要事項を記入のうえ、FAX で藤田嗣治展実行委員会事務局（兵庫県立美術館営業・広報グループ）までご連絡をお願いします。

重要

本展出品作品は著作権が保護されています。

1) 新聞、雑誌、ミニコミ誌

展覧会を広報するため作品画像を掲載する場合は、以下を厳守してください。この範囲内でご紹介いただける場合のみ、著作権使用申請は主催者で一括して行い、著作権使用料は主催者で負担します。

○作品画像の使用は1点のみとすること

○展覧会情報を除く本文（作品解説等）は400字以内とすること

○作品画像の掲載サイズを50cm²（平方センチメートル）未満とすること

《その他の注意事項》

○作品画像は必ず全図で使用してください。

○部分使用、作品に文字や他のイメージを重ねることはできません。

○作品画像の使用は本展を紹介する場合に限らせていただきます。

○展覧会終了後の画像使用はできません。

○使用する作品画像には、作家名、《作品名》、制作年、所蔵先、著作権クレジットを記載ください。

○掲載内容を事前に確認させていただきますので、必ずゲラを兵庫県立美術館営業・広報グループまで FAX でお送りください。

以上を遵守いただけない場合、問題が生じた際、主催者では一切責任を負いかねます。

■■■展覧会場取材いただく場合■■■

開会式や内覧会などで会場を撮影し、展覧会の開催をニュース（時事の報道）としてご紹介いただく場合は、通常の報道扱いとなり、著作権使用申請やクレジット表記は不要です。ただし、報道の範囲をこえ、作品画像の掲載が主で、媒体のコンテンツとなるような使用方法は、著作権使用申請が必要となり、著作権使用料を各自でご負担いただくこととなりますのでご了承ください。なお、展覧会の取材、撮影をご希望する場合も、裏面「広報画像申込書」に必要事項を記入し、事前に藤田嗣治展実行委員会事務局までご連絡ください。連絡がない場合は取材をお断りさせていただく場合があります。

2) テレビ

展覧会場を取材いただく場合は、上記「■■■展覧会場取材いただく場合■■■」をご確認ください。

ワイドショーやバラエティー番組、展覧会探訪番組などで、作品画像を使用する場合は、著作権使用申請と著作権使用料が必要となります。藤田嗣治展実行委員会事務局では対応しかねますのでご了承ください。

3) ホームページ

文章での紹介としてください（兵庫県立美術館ホームページへのリンク可）。自身のホームページで作品画像を使用する場合は、著作権使用申請と著作権使用料が必要となります。藤田嗣治展実行委員会事務局では対応しかねますのでご了承ください。※展覧会名ロゴご入り用の場合は別途お問い合わせください。

「生誕 130 年記念 藤田嗣治展—東と西を結ぶ絵画—」 2016 年 7 月 16 日（土）～9 月 22 日（木・祝）

広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 電話 (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	作品名・制作年・所蔵 等
1	《自画像》1929 年 東京国立近代美術館蔵 ©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2016 E2169
2	《エレヌ・フランクの肖像》1924 年 イセ文化基金蔵 ©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2016 E2169
3	《猫》1940 年 東京国立近代美術館蔵 ©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2016 E2169
4	《聖母子》1959 年 ランス大聖堂蔵 (ランス美術館寄託) ©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2016 E2169
5	中山岩太《ポートレート (藤田嗣治)》1926-27 年 中山岩太の会蔵 ©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2016 E2169

※本展出品作品は著作権が保護されています。表面の「広報画像等に関するご案内」の内容を厳守願います。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ	『	』
	TV・ラジオ		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		F A X	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券 (最大 5 組 10 名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)		組	名分希望

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD)、URL などを、上記
営業・広報グループ宛にお送り願います。

※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。

※展覧会名ロゴご入り用の場合は別途お問い合わせください。